

資料 5

平成 21 年度 共同研究会 第 1 回～第 6 回 記録

平成 21 年度 第 1 回 短大共同研究会記録

日 時：平成 21 年 4 月 23 日（木）15 時 30 分～17 時 00 分

場 所：第一会議室

出席者：二見 小山 黒田 山田 浅井 臼井 田野崎 森 山舘 鈴木 石綿 酒巻

1. 平成 20 年度『昭和音楽大学短期大学部 自己点検・自己評価報告書』について

二見学長より、自己点検報告書について、以下のとおり確認された。

平成 20 年度の『自己点検・自己評価報告書』は、昨年 9 月に、短大基準協会による基準にあわせて作成した『評価報告書』を用いる。

各部会・分科会及び委員会の『活動報告書』は別冊とする。

2. 第三者評価で指摘を受けた課題について

第三者評価で課題と指摘された点を改めて共有し、今後の改善策を探ることにした。

特に以下の点について、短大独自の立場で情報交換をすることにした。

- ・退学者を減らすための方策。
- ・就職率を高めるための方策。

3. 平成 21 年度の共同研究の進め方について

各人のテーマについて、現時点の状況と今年度の予定を報告した。

今後、個人の関心ある研究テーマを、グループごとの研究テーマに発展させる可能性を話し合うことにした。

「短大教育の実践」という共通の視点により、共同研究を継続することを確認した。

以上

平成 21 年度 第 2 回 短大共同研究会記録

日 時：平成 21 年 5 月 28 日（木）15 時 30 分～17 時 00 分

場 所：第一会議室

出席者：二見 酒巻 小山 木村 黒田 田邊 山田 浅井 臼井 田野崎 増村 山舘 鈴木 石綿 森

1. 短大基準協会 適格認定証贈呈式について

平成 21 年 5 月 14 日（木）に行われた「平成 20 年度第三者評価適格認定証贈呈式」に出席された二見学長、酒巻学科長より内容の報告が行われた。本年度は 55 校が適格の認定を受け、「第三者評価報告書」は短大基準協会ホームページに掲載されている。

2. 今後の研究の進め方について

- ・選書リスト回覧（4・5 月分）についての案内があった。
- ・共同研究費の使用法についての説明があった。
- ・共同研究についてそれぞれのグループの現状報告があり、今後の進め方について各教員が展望を述べた。
- ・これからの本学短期大学部の在り方について以下のような議論がなされた。

- ① 学部と異なる短期大学としての独立性を求めるのであれば、昨今の学生の志向の多様化を踏まえて、現状のコース制を抜本的に見直し、より柔軟なカリキュラムへ改革する必要がある。その際学部編入を主眼に置くのではなく、あくまで短大として完結した教育を目指すべき。また短大卒業後の就職に直結し

たキャリア教育の充実が望まれる。

- ② 音楽教育上においては本来学部・短大の差異は存在し得ないのであるから、短大が学部と同等の教育内容であることに矜持を持つべきである。学部との教育の差としては、例えば無理に進度を早めたりせず、基礎の充実に主眼を置き、学部への編入など、卒業後の勉学継続への礎とすべきである。
  - ③ 現在バレエコースを除く短大入学者のかかなりの人数の学生が、経済的理由あるいは能力的理由で短大に入学していることも鑑みて、上記①あるいは②のどちらか一つの方針に絞ることは困難であり、結論付けることは難しい。
  - ④ 専攻科は本年度も募集停止であるが、今後短大のキャリア教育の充実の一環として、例えば保育の専攻科を設けるなど、資格を取れる専攻科の設置も検討の余地がある。
- 短期大学のこれからの在り方に関しては、共同研究会の主要テーマの一つとして捉え今後も検討を重ねていく。

以上

---

平成 21 年度 第 3 回 短大共同研究会記録

日 時：平成 21 年 6 月 30 日（木）15 時 30 分～16 時 45 分

場 所：第二会議室

出席者：二見 酒巻 小山 木村 黒田 田邊 山田 浅井 臼井 田野崎 増村 山舘 鈴木 石綿 森

## 1. 『平成 20 年度 私立大学の教育・研究充実に関する研究会報告書（短期大学の部）』

（私学研修福祉会主催・日本私立短大協会協力）より

- ・私立大学の取り組み例について（資料 1）

平成 20 年 11 月 7 日（金）に行われた標記研究会の報告書について二見学長より説明があり、同報告書より「志願倍率が高い短期大学にみられるいくつかの特徴点」（資料 1）が酒巻学科長より紹介され全 15 項目ごとに本学の現状について検討を行った。その結果本学ではほぼすべての項目に取り組んではいるものの、中退防止対策などさらなる充実を求められる項目もあり、「私立短期大学の事例紹介」（同資料 1）も参考にしながら、今後も検討を重ねていくことにした。

## 2. 「実践的キャリア教育共同研究グループ」よりの検討報告（資料 2）

- ・1 案：本学短期大学部卒業生の、本学附属音楽・バレエ教室への就職対策案

上記について鈴木准教授より説明があった。検討の結果、短期大学部卒業生の能力差など課題は認められるものの、学生募集と就職対策という両面のメリットを勘案し、実現に向けて検討していくことで了承した。

- ・2 案：「音楽コミュニケーション研究」（仮称）

～専門実技を生かして社会貢献可能なスキルを身につける～

上記についても鈴木准教授より説明があった。その後「ピアノ演奏研究グループ」からの新カリキュラム案も提案され、短大全コース共通の新カリキュラムとして、各コースそれぞれが独自の教育内容を盛り込みつつ、全コースを統合したコミュニケーション力の向上を目指す新たな授業の企画を研究テーマとして検討していくことで合意した。

## 3. 今後の研究の進め方について

前述の新カリキュラムについては全コースを対象にした短大全体の研究テーマとなったが、各グループの研究については今後も個別に進めていく。

以上

平成 21 年度 第 4 回 短大共同研究会記録

日 時：平成 21 年 7 月 21 日（火）15 時 30 分～16 時 15 分

場 所：第 1 会議室

出席者：二見 酒巻 小山 黒田 山田 浅井 白井 田野崎 増村 山舘 鈴木 石綿 森

1. 前期のまとめと今後の計画について

1) 今年度の活動に関する報告書作成の確認。

本年度末に今年度の活動に関する報告書を作成するため、後期にはそれに向けて各研究グループの途中経過をまとめていくことを確認した。

2) 「ピアノ演奏研究グループ」よりの検討報告（資料 1）

前回提案された「ピアノ演奏研究グループ」からの新カリキュラム案について、配付資料 1 を基に森准教授より改めて説明があった。その後各教員より以下のような意見が出された。

- ・内容が多岐にわたる必要性も理解出来るが、やや盛りだくさん過ぎて全体に大雑把な説明で終わってしまう恐れがある。より基礎的な内容に絞り込んで徹底的に身に付くまで指導することが望ましいと感じる。
- ・コミュニケーション能力の練磨をこのカリキュラムで扱うと内容が広範囲になりすぎてしまうので、「実践的キャリア教育共同研究グループ」の「音楽コミュニケーション研究（仮名）」におけるプレゼンテーション能力養成に集約してもよいのでは。
- ・大学や大学院での類似した授業においても学生の知識や基礎力の不足が散見されるが、これは現在行われている和声学、音楽史、楽式論などの楽理関係授業と実技関連授業との有機的関連の不足に原因があると思われる。
- ・教職の面から見ても 2 年目に教育実習を行わなければならない短大生には、特に短期間に総合的な能力を身に付けられるシステムによる授業と指導方法が必要と思われる。
- ・短大全コース共通の必修科目として、1 年目にはごく基礎的な歌唱法、ピアノ奏法、楽曲分析、和声理論等を同一プログラムによる少人数クラスで指導し、2 年目にはコースごとに特化した独自のカリキュラムを盛り込んだ授業展開を行うのが望ましいのでは。
- ・現在短大ピアノコースで 1・2 年に行われている「秋のコンサート」はアンサンブルを主体としたコンサートであるが、これを短大全コースが一斉にそれぞれの特徴を活かした内容で行うことも可能ではないか。

2. 図書館より提供される選書図書一覧資料の利用について

表記について図書館事務室入り口右側壁の設置場所と、購入希望教員が取るべき手続きに関する説明があった。

3. その他

次回全体会開催予定日時は 9 月 24 日（木）15：30 で了承された。

以上

平成 21 年度 第 5 回 短大共同研究会記録

日 時：平成 21 年 9 月 24 日（木）15 時 30 分～16 時 30 分

場 所：第 1 会議室

出席者：二見 酒巻 小山 木村 黒田 山田 浅井 白井 田野崎 増村 鈴木 石綿 森

1. 本年度の『報告書』作成計画について

1) 今年度の中間報告書の各グループまたは個人の研究テーマについて全教員より以下のような報告があった。

- ・浅井・森 「アンサンブルを主とするピアノ教育の手法について」

- ・臼井 「ピアノレッスンにおける指導上の諸問題」
- ・鈴木・石綿 「キャリア教育について」
- ・小山 「短大バレエ教育の現状と特色」
- ・黒田・増村 「フルート教育の実態―教材と指導をめぐって」
- ・木村・田野崎 「昭和音大におけるベルカント唱法の歴史」
- ・山舘 「合唱指導の実態」
- ・田辺・山田 「教職学生アンケート」
- ・酒巻 「西洋音楽史および音楽芸術コースでの授業運用について」

2) 実務統括を酒巻学科長、実務統括補佐を増村准教授、森准教授が行うことを確認した。

3) 研究の方針は原則として1年目中間報告書では「仮説」をまとめ、2年目報告書にて「実践と検証」を行うことを確認した。

4) 中間報告書の分量はA4用紙(10.5ポイント40×40)5枚程度とする。

5) 提出締め切りは平成22年2月末とする。

## 2. 本学卒業生にきく実技教育の歴史について

本年度は本学出身の声楽・器楽の講師8人に対しベルカント奏法、フルート奏法を中心にインタビューを行い報告書に掲載する。さらに来年度は卒業生へのインタビューを続行し、最終的に「本学における実技教育の歴史」として来年度報告書にまとめる。コーディネイターは田野崎准教授が担当する。

## 3. その他

### 1) 二見学長よりの報告

9月18日に開催された「理事長、学長会議」に出席し、その折に「今短大で求められるのは面倒見の良い、日々の親切的な教育である」ことを痛感されたとの報告があった。

2) 次回全体会開催予定日時は平成22年1月26日(火)15:30で了承された。

以上

平成21年度 第6回 短大共同研究会記録

日 時：平成22年1月26日(火)15時30分～16時15分

場 所：第1会議室

出席者：二見 酒巻 小山 黒田 山田 浅井 臼井 田野崎 増村 山舘 鈴木 石綿 森

## 1. 本年度(研究1年目)の『中間報告書』作成計画について

昨年度『準備版』はコピー製本であったが、本年度『中間報告書』は業者に印刷を依頼し製本する。

- ・レイアウト： B5判 MS明朝体 10.5ポイント(35×30)
- ・枚数： 8枚程度(今回は分量の増減は 問わない)
- ・締切り： 3月3日(火)必着
- ・提出方法： データをメールに添付する。
- ・提出先： 酒巻学科長のメールアドレス
- ・校正予定： 3月11日～13日
- ・完成予定： 3月25日(木) 教授会にて配付

2. 卒業生にきく本学の音楽教育実践活動の変遷について

田野崎准教授を中心にインタビューを続行中であり、聴取完了分については本年度の『中間報告書』に記載予定である旨、二見学長より説明があった。

3. 来年度(研究2年目)の研究計画について

来年度の研究内容としては、本年度『中間報告書』の内容に追加する形で研究を進める方法に加え、本年度完成させた内容について来年度検証を試みる方法も可能である旨を合意した。

4. その他

- ・『短期大学部 第三者評価報告書』に記載した「語学力の強化」に関しては、1月21日に行われたFD研修会でも取り上げられたように本学の独自性を高める上で大変有効なので、今後具体化していく方向で取り組んでいきたいと二見学長より意見が述べられた。
- ・本年度の卒業年次生向けのアンケートの回収率が現時点で低いため、改善すべく協力の要請があった。加えて卒業後の進路支援の充実を図っていく必要性が改めて確認された。
- ・東京音大では本年1月8日初めてFD研修会が開催されたが、その折に酒巻学科長がパネラーとして招聘され、FD先進校としての本学でのFD活動の歴史と内容が紹介された旨、報告があった。

以上